

《履修上の留意事項》毎回、各自のPCを必携のこと。授業では、毎回、各自のPCを使って演習をしますので、忘れずにPCを持参してください。

《担当者名》米田龍大 ryu-yone@hoku-i-ryo-u.ac.jp

【概要】

本科目では理学・作業療法職として、医療の現場における臨床例や実験などで得られるデータを適切な統計的手法により処理する方法を学ぶ。

【学修目標】

理学・作業・言語聴覚療法職に必要な統計学の活用方法を理解するために、記述統計、t検定、カイ二乗検定、分散分析について学び、理学・作業療法職において活用される統計学の基本を説明できる。

1. 尺度、度数分布表、ヒストグラムデータの平均と分散、標準偏差を計算できる
2. z検定により平均値を検定できる
3. t検定（対応がある場合と対応がない場合）により平均値を検定できる
4. z検定とt検定の相違点を列挙できる
5. t検定を想定した題を創出できる
6. カイ二乗検定により結果を推論し説明できる
7. 分散分析により結果を推論し説明できる

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	尺度、度数分布表、ヒストグラム	尺度について概説できる 度数分布表とヒストグラムについて説明できる。 スプレッドシートでヒストグラムを作れる	米田龍大
2	平均、標準偏差	平均値、中央値、最頻値について説明できる。 分散、標準偏差について説明できる スプレッドシートで平均を計算できる スプレッドシートで標準偏差を計算できる	米田龍大
3	正規分布	正規分布、標準正規分布について説明できる。 正規分布表を用いることができる。 スプレッドシートで正規分布曲線を作れる	米田龍大
4	区間推定	点推定と区間推定の概念を説明できる。 区間推定の信頼度について説明できる。 正規母集団における平均の信頼区間を計算できる。 スプレッドシートで信頼区間を計算できる。	米田龍大
5	z検定	z検定の方法を概説できる z値を計算できる	米田龍大
6	仮説検定法	仮説検定法について説明できる。 帰無仮説と対立仮説について説明できる。 有意水準について説明できる。 第一種過誤・第二種過誤について説明できる。	米田龍大
7	t検定（対応がない場合）	中心極限定理を概説する t検定（対応がない場合）の仕組みを概説できる t値を計算できる	米田龍大
8	t検定（対応がない場合）	t検定（対応がない場合）の演習ができる	米田龍大
9	t検定（対応がある場合）	t検定（対応がある場合）の仕組みを概説できる t値を計算できる	米田龍大
10	t検定（対応がある場合）	t検定（対応がある場合）の演習ができる	米田龍大

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
11	カイ二乗検定（1サンプル）	カイ二乗検定（1サンプル）を概説できる カイ二乗検定における期待値の計算方法を概説できる カイ二乗検定における自由度の計算方法を概説できる カイ二乗値の計算ができる	米田龍大
12	カイ二乗検定（複数サンプル）	カイ二乗検定（複数サンプル）を概説できる カイ二乗検定における期待値の計算方法を概説できる カイ二乗検定における自由度の計算方法を概説できる カイ二乗値の計算ができる	米田龍大
13	分散分析	分散分析を概説できる 行間のばらつきの計算方法を概説する 誤差のばらつきの計算方法を概説する F値を計算できる	米田龍大
14	分散分析	分散分析の演習ができる	米田龍大
15	分散分析	分析ツールを使って各種の検定ができる	米田龍大

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

確認問題小テスト（20％）、定期試験（80％）により評価する。

小テストは、学修eポートフォリオシステムから毎時間自由記載の振り返りコメント（授業に対する感想・質問等を含む）を送信してもらい、次の時間には振り返りコメントに対する回答・解説をフィードバックする。

【教科書】

渡邊宗孝 他 著 「PT・OTのための統計学入門」 三輪書店 1997年

【備考】

- 学習教材（授業資料）の配信、学習課題の提示
 - ・Google オンラインアプリケーションを利用して学習課題を提示する
- 授業に関する学生相互の意見交換やグループ学習の実践
 - ・学生相互の意見交換を目的にGoogle オンラインアプリケーションを活用する
- 授業時間中にその場で学生の理解度を把握する技術の活用
 - ・Google Formを活用し、授業時間中にその場で学生の理解度を把握する

【学修の準備】

- ・教科書で該当する章を事前に読んで内容を理解しておくこと、また、北海道医療大学DX推進計画サイト（<https://dx.hoku-iryu-u.ac.jp/dx/edu>）には必要な教材なども公開されているので予習において活用すること（事前学修120分）。
- ・情報処理室やCALL教室、もしくは、自分で所有しているパソコンを利用して事前学修の項目を確認したり、授業で作成した課題を再度作成するなどの事後学習（復習）を行うこと（事後学修120分）。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

（DP1）生命の尊厳と人権の尊重を基本とした幅広い教養、豊かな人間性、高い倫理観と優れたコミュニケーション能力を身につけている。